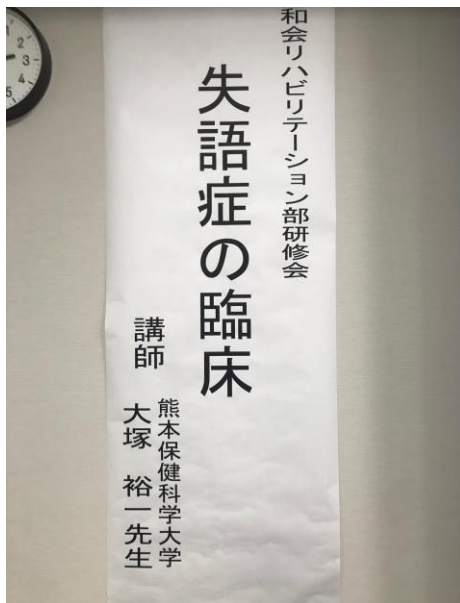


2019年12月8日（日）に健和会リハビリテーション部のST部門研修会として熊本保健科学大学 リハビリテーション学科 言語療法学専攻 大塚裕一先生をお招きして、「失語症の臨床」のテーマにて研修会を行いました。55名（PT：23名 OT：14名 ST：18名）の職員が参加しました。

2部構成となっており、1部は「失語症の臨床と関連障害」というテーマで脳の解剖、生理学から高次脳機能障害（主に失語症）についてPT、OTにも理解しやすい内容で講義をして頂きました。

2部は「症状別で考える失語症訓練」というテーマでST向けに5症例提示して頂き、具体的な評価から訓練内容についての内容となっていました。どちらの部も患者様の動画も交えながら講義をして頂き、とてもイメージしやすく臨床へすぐに生かせる内容でした。



◇参加者アンケートより（一部抜粋）◇

- ・失語症について脳局在やイメージ等と分かりやすいスライドや動画を用いての講義でありとても分かりやすく理解しやすかった。
- ・失行にもつなげやすく病態理解ができた。
- ・患者の動画があって分かりやすかった。実際、臨床で出会う患者の症状は様々でより分かりにくいことが多いので細かく評価が必要だと思った。
- ・前半の講義がもう少し深い内容でもよかった。PT・OTがどのように関わっていくのかという視点があってもよいと感じた。メカニズムの部分がもっと聞きたかった。
- ・失語症患者について担当STと話す際、何を目的にどんな訓練をしているか理解しやすくなった。
- ・失語症患者が多く臨床の場面で戸惑うことが多かったため、コミュニケーションを取るときに役立ちそうです。
- ・OTとしてADLを進めていくうえで患者様とのコミュニケーションは必須であるため、失語症について理解することも必要であることを再確認できた。
- ・音韻へのアプローチで悩むことがたくさんあり、特に課題の理解が難しい患者さんも多かったため参考になった。
- ・急性期の時点で注意などがかなり悪い状況の中でコミュニケーション面の評価にかなり苦戦することがあるので、回復期につなげるために何を急性期ですべきなのか考えさせられました。

◇まとめ◇

今回失語症についての研修会を終え、失語症についてのさらに理解を深めることが出来ました。今後の臨床場面でも今回学んだ事を生かしていきたいと思えます。